

村杉半島 大川猿倉山

■4月1日(土)

昨年の9月に訪れた村杉半島。今回は沢ではなく雪山だ。GWの下見を兼ねた山行に福永さん、氏家君を迎えた4名でのパーティーとなった。

歩き出しはいつも同じ奥只見丸山スキー場。9月に来た時に通ったゲートは見る影もなく雪に埋まっていたので、駐車上からダイレクトに林道へ斜面を下る。林道に降り立つと我々の行く先に続いているトレースを発見。大鳥ダムの作業員の方が入っているのだろうか。悪い箇所を迂回し、雪伝いに伸びていく見事なトレースを追いながら、強い日差しの中を歩き続けると見覚えのある上大鳥橋が見えてきた。

橋を越えて、只見川右岸に渡り、計画書通り白滝沢右岸の尾根に取り付く。白滝沢出合いまでトレースは続いており、なんと我々の取り付く予定の尾根に伸びていた。こんなマイナーな山域に来る人が他にいることに驚き、人のトレースを辿ることに少々落ち込んだが、小休止をしてから気を取り直して歩き始める。急斜面も出てくるが歩きやすい広い尾根で滑落等の危険はない。雪もしっかりしているので雪崩の心配も無さそうだ。

ゆっくりではあるが歩を進めると「三羽折の高手」に続く主稜線に出た。後ろを振り返れば白い山肌が美しい未丈ヶ岳から憧れの毛猛岳の稜線が目の前に横たわっている。あの稜線もいつか歩きたいルートだ。前方を見ればいつかの年に沢から登った丸山岳、右手に目を移すと遥か彼方には一際目立つ双耳峰の燧ヶ岳、至仏山、秋の会山行で登った平ヶ岳、いつか登りたい荒沢岳と、思い出のある山々が連なっている。今まで辿ってきたルートを山の上から眺めていると、自分だけのコレクションを見ているようで嬉しくなる。これも山を登り続ける醍醐味なのかもしれない。

主稜線も歩きやすい広い尾根で、常に先をゆくトレースの後を追い、着実に歩を進める。一つ二つ小ピークを越えると丸く膨らんだ村杉岳が見えてきた。まんじゅうのように美味しそうな山だ。つるんとした山頂に到着ししばし休憩。目的の大川猿倉山が目の前に見えるが、まだまだ先は長い。予定では村杉岳直下、地形図上の平らな尾根に泊まるつもりでいたが、目的までの距離を考えると少しでも先に進みたくなった。

メンバーに無理を言って先に進むことに決定。村杉岳から降り始めてすぐに先行者のテントが現れた。人はいないようなので、前日登ってきて今日は先に進んでいるようだ。我々も負けじと先に進む。小ピークを越えてしばらく進むと、クラックが雪面に口を開けていた。もちろん

迂回するために一步右によって後ろからくるメンバーを振りかえったその時、一瞬で辺りが暗くなった。なにが起こったかわからず目を開けると、辺りは雪に囲まれ薄暗い。クラックに落ちたと気

【日程】

2017年4月1日(土)

～4月2日(日)

【メンバー】

吉澤(L)、松本、福永、氏家

【地形図】

未丈ヶ岳、会津朝日岳

【記】吉澤



づいた瞬間に上から自分を心配する声が聞こえてきた。幸い怪我なく無事だったので良かったが、アイゼンでも履いていたら足首ひねって歩けなくなっていたかもしれない。近くの灌木にスリングをかけてもらい自力で這い上がったが、辺りが暗くなった時は、肝が冷えた瞬間だった。

ハプニングがあり、すっかり先に進む気が失せたので来た道に戻り予定通りの場所にテントを張る準備をしていると先行者が戻ってきた。声をかけて話を聞くと、大川猿倉山の遥か先、横山まで行って帰ってきたとのこと。すごい。黒光りする肌に笑みを浮かべる先行者は絵に描いたような山屋だ。さらに話しをすると松本さんと八海山の山小屋であったことがあるようで、こちらのことを「トマの会」だと覚えていてくれた。世間は狭い。

テントを設営し、中で一息つく瞬間は幸せの時だ。酒とつまみを用意して、楽しいひと時を過ごす。天気予報では今晚雪が降るようで少々心配になるが、徐々に回復する予報を信じて寝ることにした。

■4月2日(日)

予定通りの時間に目を覚まして外を見るとガスが出て雪が舞っていた。幸先よろしくない状況に気分が滅入るが歩けない状況ではないので準備をして出発する。ヘッドランプで辺りを照らすが見界が悪い。昨日までのトレースは降り続く雪で薄くなってしまい、尾根を下るルートでは方向を間違えて登り返す羽目になった。それでも日が昇り明るくなるころには雪は止み、ガスが晴れて視界がきくようになった。



うっすらと残るトレースを辿り進んでいくが、予定していた6時になっても大川猿倉山はまだ先だ。下山も考えると引き返すしかないか。ぼそっと漏らしたその言葉に松本さんが反応して、もう一時間延長して歩こうと言ってくれた。少し悩んだが、気合をいれて延長線に突入。最後は斜面をひたすら昇り、7時には全員山頂に立つことができた。人生で再びくるかわからないマイナーピーク登頂の喜びを噛み締めながら辺りを見渡す。白い山肌がどこまでも続いていく。いつ見ても雪山は綺麗だ。いつまでも見惚れていたいが、時間が迫っているので足早に下山を開始。

あとはテントを回収してきた道に戻るだけだ。最後、林道へ降りる斜面でシリセードしたら表層雪崩を起こしてしまい、あわや松本さんを巻き込むとこだった。最後まで注意しないと。

一応無事林道までたどり着き、初日と同じ、再びの強い日差しの下、駐車場を目指して帰路についたのでした。

【行程】

- 4/1 丸山スキー場 (7:30) ~ 白滝沢右岸尾根取付 (9:00) ~ 村杉岳 (13:00) ~ 1481m 付近泊 (14:30)
- 4/2 C1 (5:00) ~ 宿の塔 (6:00) ~ 大川猿倉山 (7:00) ~ 駐車場 (15:00)